

シンポジウム

S1-1 家族性高コレステロール血症（FH）の心血管および頸動脈病変に対するLDLアフェレシス（LA）の長期効果と限界

医療法人天神会新古賀病院循環器内科※、古賀病院腎臓内科※※、同血漿交換室※※※

○古賀伸彦※、佐藤隆※※、岩本ひとみ※※※、中園和子※※※

【目的と方法】6年以上の長期間LAを施行した自験例11症例（ホモ接合体FH2例、ヘテロ接合体FH9例）について、冠動脈造影、頸動脈エコー、心エコーを用いて経時的に観察し、LAの治療効果と限界について検討した。

【結果】冠動脈造影では、ホモFH2例は進行し、ヘテロFH9例中3例に退縮、2例は不変、4例に進展がみられた。心事故は11例中6例にみられたが、治療開始時に左室瘤が存在した低心機能の1例を除き非致死性であった。頸動脈エコーでは9例にプラークの進行がみられ、1例は不変、退縮は1例であった。早期の動脈効果の指標である内膜中膜複合体（IMT）の進展度はヘテロFHでは著しく抑制された。プラークの進行の著しかった症例は、LA開始時より既に進行したプラークを有していたが、LA開始時の動脈病変が軽度の症例では進行も軽度であった。心エコー図では、ホモFH2例とも大動脈弁次いで僧帽弁病変の進展がみられた。ヘテロFHでも同様の傾向が認められたが、軽度の変化であった。

【結論】画像診断において動脈硬化病変の進行する以前にLAを開始することが病変の進行抑制に有用であることが示唆された。ホモFHについては冠動脈および大動脈弁、僧帽弁狭窄への進展阻止が今後の課題である。

S1-2 ヘテロ接合体性家族性高コレステロール血症患者に対するLDL-アフェレーシスの長期効果

金沢大学第二内科、Hokuriku-FH-LDL-apheresis Study Group

馬淵 宏、梶波康二

家族性高コレステロール(CHOL)血症(FH)は高LDL-CHOL血症と早発性冠動脈硬化症を特徴とする常染色体性優性遺伝疾患である。ホモFHに対しては薬物療法の効果は期待できないので、LDL-アフェレーシスが適応となる。既に冠動脈疾患を合併しているヘテロFH例にも強力なCHOL低下療法が望まれるが、薬物療法だけで治療目標を達成できないことが少なくない。このような症例に対してもLDL-アフェレーシスが適応となる。今回われわれはヘテロFH患者のうち、冠動脈造影を行って有意冠動脈狭窄を認めた130例を、CHOL低下剤薬だけで治療した87例と、さらにLDL-アフェレーシスを併用した43例に分け平均6年間経過観察し、心血管イベントの発症率をKaplan-Meier法で検討した。両群で血清CHOL、LDL-CHOL、HDL-CHOLが減少したが、LDL-CHOLはLDL-アフェレーシスでは $285 \pm 27 \text{ mg/dl}$ から $120 \pm 31 \text{ mg/dl}$ へ58%低下したが、薬剤治療群では $232 \pm 51 \text{ mg/dl}$ から $166 \pm 59 \text{ mg/dl}$ へ28%減少した。すべての冠動脈イベントを両群で比較したが、薬剤治療群の36%に対して、LDL-アフェレーシス群では10%と少なかった(-72%)。長期間のLDL-アフェレーシスは重篤な副作用なく、またアルブミンなど他の血漿成分を全く補給することなく継続できた。結語：冠動脈疾患を伴う重症ヘテロFH患者の治療にLDL-アフェレーシスは有用であった。